



# 美郷村総合学術調査について

徳島県立図書館長 松 平 清

阿波学会紀要第50号として美郷村総合学術調査の報告がまとまり、このたび発行の運びとなりました。総合学術調査は徳島県立図書館と阿波学会の共催による毎夏の恒例事業として定着しています。平成15年度は、麻植郡美郷村において7月28日から10日間実施しました。

美郷村は昭和30年1月、中枝村、三山村、東山村が合併して誕生しました。村域は東西13km、南北8km、総面積50.47km<sup>2</sup>、人口は平成15年3月現在で1,444人。村の中心部は北緯34度1分、東経134度15分の地点に位置しています。南は剣山に連なる山稜地帯、北側は四国山地に囲まれていて、集落は川田川と東山谷川に沿って点在しています。近年は、過疎化・高齢化が進み、人口の急激な減少が大きな問題となっています。さらに国の財政悪化が当村にも影響しています。

こうした背景もあって美郷村は、平成16年10月1日に麻植郡内の他町村との合併により新しく「吉野川市」として生まれ変わることになっています。その意味でも今回の調査は、美郷村として最後の年にあたり意義のあることと思われまます。

さて今回の調査結果では、いくつかの特色が見られます。詳細は報告書に譲りますが、例えば地質班によると、美郷村に多く露出している基盤岩は三波川変成岩であり、地表からの深度40～10kmのところで作成された高圧型変成岩として大歩危複背斜に相当する構造（肱川時相）であります。三波川変成岩の変成鉱物に関しては、点紋片岩と無点紋片岩とに大別されますが、この地質分布と地すべり地形の分布について関連を研究しています。

考古班は美郷村に所在する中世の板碑387基を調査しています。東山地区では124基のうち五輪塔線刻板碑が多数を占めており、種野地区では14基のすべてが阿弥陀三尊板碑でした。別枝地区では168基、中枝地区で81基をそれぞれ確認しています。隣町の神山町での板碑との関連性ともに、阿弥陀三尊種子に花瓶を伴うのが別枝地区で5基発見されました。これらが美郷村の特徴であるとしています。

地理班では美郷村の貴重な観光資源である「ほたるまつり」の来訪者の分析を行っています。県外から来訪者が20%を超えていることや、過去に来たことがある人が半数以上あることなど、あるいは全体的に好感度が高いことなどを指摘しています。また情報ソースについては従来の方法に加えて、インターネットの普及を前提にウェブでの積極的な情報発信を提言しています。

この他にも興味深い発見や調査がたくさんありました。このような地域に密着した研究を積み重ねることによって、結果的に地域貢献に寄与しているものと関係者一同信じています。

最後になりましたが、美郷村長さんや教育長さんをはじめ、地元役場関係者の皆様、調査にご協力頂いた多くの村民の方々、暑い中、懸命のご努力をされた調査員の皆様に厚く御礼を申し上げます。